

# 報 恩 寺 だ よ り

昭和55年3月25日

神奈川県綾瀬市寺尾889

おたすけ観音 報 恩 寺

電話 0467-78-7160

## ◎ 開山忌勤修について

報恩寺の御開山、朝岩存夙大和尚の報恩法要と、17日はおたすけ観音の縁日ですので、壇家の方及び参詣の方の家内安全の大般若祈禱会を、次により行いますので是非御参詣をお願いいたします。

### 記

1. 期 日 4月17日(火)
2. 日 程 午後1時 開山忌法要  
午後1時半 大般若祈禱会  
午後2時 ~ 3時

法話 善浪鉄心老師(横浜 正観寺住職)

○香資(2,000円)は当日御志納お願いいたしたく存じます。

## ◎ 永平寺二祖国師大遠忌団体参拝について

6月28日(土)~30日(月)の団参に次の方々が参加されます。

(寺尾) 近藤俊平・近藤千代子・小山田キヨ・橘川ヨシ子・柏木芳衛・柏木シゲ  
小山田八重・橘川トヨ・橘川 敏・近藤キン・橘川ふく代・早川ヒデ子  
近藤アキ・山口セン・橘川マン・小山啓介・小山すづ・小山智恵子・  
杉浦弘祐・橘川 基・橘川サダ・笠間綾子

(深谷) 武藤政雄・武藤高春・武藤美枝・武藤ツヤ子・笠間マキ子

(早川) 宮川さつき (蓼川) 山口ハル (座間) 奥津政信

(平塚) 小山田ヒロ (横浜) 加藤志計留

※ 会費残額30,000円は4月17日に御納付下さい。

※ 人員に余裕が有りますので希望者は御申込下さい。

○大遠忌本法要期間中、住職は随喜いたしますので、4月23日~5月13日の間は、法事の予定は変更して下さい。

## 涅槃像縁起

お釈迦様の法要には、四月八日の仏誕会、十二月八日の成道会（お悟りを開かれた日）、そして2月15日の涅槃会の三仏忌があります。

涅槃会はお釈迦様の亡くなられた日です。涅槃とは吹きけす事で、煩惱の火を焼きつくして、智慧が完成する悟りの境地を指し、仏教ではここに至ることを最後の目的としています。春秋の御彼岸も生死（煩惱）の此岸から、悟りの彼岸の涅槃に行くための努力をする週間です。

涅槃会には本山等では法要が行われています。報恩寺では毎年2月1日から15日まで、涅槃像の掛軸を掛けていましたが、昨年大分損傷が多くなったので修復いたしました。この涅槃像の箱の蓋の裏に、為青松二十一世貫山禪師とあり、一段下って孝室妙順信女、産監貞鏡禪定尼、蓮室妙馨禪定尼、速法直成禪童女とあり、その下に金苞両深谷友左衛門、金百疋、深谷源兵衛、金式歩、源左衛門方、金苞歩、現住是參寄附と記されています。



### ○ 二百三十年前に寄附された掛軸

報恩寺十四世絶參是乘大和尚は、安永四年に示寂されましたが、その前の金毘羅大権現を勧請された十三世雪子玄肇大和尚は宝暦二年（1752）に示寂されておりますので、<sup>1754</sup>1752～1775の間に購入されたものです。是乘大和尚は、東京芝の現在でも一番格式の高い青松寺の貫山禪師の弟子であったのででしょう。

孝室妙順大姉は過去帳に宝暦六年（1754）正月十日卒、前源兵衛姉、深谷友衛門（妻）と記され、産監貞鏡禪定尼は、宝暦六年正月十九日卒、深谷八郎左衛門女房源兵衛娘とあります。八郎左衛門は深谷高島夏野家（現在十四代目）の六代目の人であり、源兵衛は五代目の人です。

掛軸は宝暦六年か七年に寄附されたものと考えられます。



○ 百三十年前に修復

昨年再修復する時に掛軸の裏に施主名が書いてありました。銀五匁弥八、銀五匁金右衛門……………等12名と、世話人としては、銀五匁庄五郎、銀五匁半蔵と記され右寄附、本蓼川村総檀中方、文久三年二月 日、当山二十五世玄乗代、再建也と書いてありました。

最初に寄附されて百年目で修復されたもので、本蓼川の人達全員の協力によりなされたものです。今回再度、百三十年目の表装しなおしたのですが、掛軸の寿命は百年と云へるかも知れません。

世話人として庄五郎、半蔵とありますが、

庄五郎は武藤政雄氏の四代前の人で、当時49才、他の古文書では寺の総代となっていますが、この寄附の世話をした人と云う意味とと思います。半蔵は福田へ移転された武藤雄司氏（現在世話人）の三代前の人で、当時39才でした。

先祖（報恩寺過去帳による）

文久三年修復寄附者

現代の当主

善右衛門	1670頃卒	六代庄五郎（当時49才）	十二代政雄
伝兵衛	1696卒	九代半蔵（＼39才）	十二代雄司
安兵衛	1680頃卒	十代金右衛門（＼58才）	十四代新次
重兵衛	1689卒	七代安右衛門（＼36才）	十代勝次郎
			九代徳二
久兵衛	1703卒	八代久右衛門（＼58才）	十二代久雄
重郎右衛門	1706卒	九代善吉（＼43才）	十二代一夫
			十二代平八郎

新兵衛	1786卒	五代新兵衛(当時55才)	九代信雄
喜左衛門	1710卒	八代喜左衛門("49才)	十一代一男、博 十二代寿夫
伝左衛門	1720頃卒	五代伝左衛門("56才)	十代高春、辰一
三郎兵衛	1700頃卒	七代甚蔵("43才)	十代昌司、寛 十一代十郎
善兵衛	1670頃卒	八代惣兵衛("50才)	十一代隆三
友右衛門	1690頃卒	八代清吉("47才)	十二代政二

上記以外に弥八、清吉があるが、善三郎氏の関係と考へられ、松兵衛は他所へ行ったとの事である。

安兵衛、重兵衛、久兵衛は兄弟だとの伝承がある。

寺尾の橘川は天正(1590)の頃寺尾に来たが、本蓼川の武藤は寛永(1640)の頃から過去帳に記載があり、蓼川の初期の人と同時期である。

文久3年(1863)に14戸であるが、その20年前に作成された相模風土記に、本蓼川村の戸数26戸となっているので、半数以上が武藤であり、報恩寺の檀家であった事になり、上の表のとおり、更に百五十年前も殆んど同数であった。

寺尾の橘川が、小田原北条の中隊長的な武士であったが、武藤もその仲間であった事が考へられる。

#### ○ 悲嘆する全ての生物

涅槃像は釈尊が涅槃に入った状況を画いたもので、四本の沙羅双樹(半数の樹は悲しみの為に枯れた)に囲まれた宝台に釈尊は枕を北にし、右脇を下にして眠る。その周囲に諸菩薩はじめ、仏弟子、国王、大臣、天部、優婆塞、鬼神、畜類等の52類と仏母摩耶夫人が出現する。

菩薩を除いては悲嘆の描写がなされ、仁王や獅子の鳴泣する状態も見られる。本物を見た事のない仏師の画いた獅子や象は、どこか変った感じがする。